

新フェローの紹介

伊倉 義郎 (いくら よしろう) 氏

昭和 26 年 12 月生れ

〔学歴〕 昭和 56 年 コーネル大学 School of Engineering, Operations Research & Industrial Engineering 学科卒業 (Ph. D.)

〔職歴〕

昭和 56 年 Pacific Gas & Electric 社システム・エンジニア

昭和 59 年 Consilium 社システム・エンジニア, 営業マネージャー

昭和 62 年 AT & T Bell Laboratories 主任研究員

平成 5 年 SAITECH, Inc., (株)サイテック・ジャパン代表取締役社長 現在に至る

この間, 東京工業大学, 慶應義塾大学, 南山大学で非常勤講師を歴任

〔OR 学会関係〕 第 27 回普及賞 平成 14 年度, 代議員 平成 16~19 年度, 現在研究普及理事

〔著書等〕 論文約 20 編, 研究発表多数

伊倉氏は, 組み合わせ最適化アルゴリズムの理論的研究を基に, 一貫して企業における最適化システムの開発と実施に取り組んでこられました。特に大規模で複雑な制約の多いスケジューリング問題やネットワークの設計, 輸送問題の解法と事務的システムの開発で成果を収め, 学会で多数の研究発表をされておられます。米国 INFORMS の CPMS 研究部会の会長や Edelman 賞の審査員を務められるなど, OR の発展・普及に貢献されています。



海生 直人 (かいお なおと) 氏

昭和 28 年 8 月生れ

〔学歴〕 昭和 56 年 広島大学大学院工学研究科博士課程後期システム工学専攻単位取得満期退学 (工学博士)

〔職歴〕

昭和 56 年 広島修道大学商学部講師

昭和 58 年 同助教授

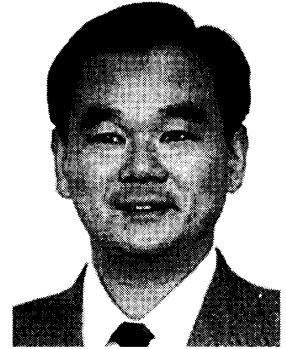
平成 5 年 同教授

平成 9 年 同大学経済科学部教授 現在に至る

この間ロチェスター大学客員研究員

〔OR 学会関係〕 中国四国支部幹事 昭和 58 年度・昭和 61 年度~平成 13 年度, 評議員 平成 6~7 年度・平成 12~13 年度, 研究普及委員 平成 8~13 年度, 論文誌編集委員 平成 10~13 年度, 代議員 平成 14 年度~現在, 中国四国支部長 平成 14~19 年度〔著書等〕 OR による経営システム科学 (共著, 朝倉書店, 1989) 他, 査読付き論文 150 編以上, その他論文・学会発表多数

海生氏は, 信頼性理論を中心に長年研究活動をされており, その成果は国内外の学術雑誌, 学会において発表されるとともに, 国内外の学術雑誌の編集にも携ってこられました。本学会においては, 各種委員, 評議員, 代議員, 中国四国支部幹事, 支部長等を歴任され, その活動を支えてこられました。



岳 五一 (がく ごいち) 氏

昭和 28 年 5 月生れ

〔学歴〕 平成元年 京都大学大学院工学研究科博士課程修了 (工学博士)

〔職歴〕

平成元年 京都高度技術研究所研究員

平成 3 年 同主任研究員

平成 3 年 和歌山大学助教授

平成 4 年 甲南大学理学部助教授



平成9年 同教授

平成13年 同理工学部教授

平成16年 同知的情報通信研究所所長 現在に至る

平成20年 同知能情報学部教授 現在に至る

〔OR学会関係〕 平成17年秋季研究発表会実行副委員長，関西支部運営委員 平成10年度～現在，「情報ネットワーク性能評価」研究部会主査 平成18～19年度

〔著書等〕 Performance Analysis of Multichannel and Multi-Traffic on Wireless Communication Networks (共著, Kluwer Academic Publishers) 他著書7編，査読付き学術論文約139編，解説12編，研究発表多数

岳氏は，確率過程論，待ち行列理論の手法を応用して，マルチメディア通信網，移動体無線通信網など情報通信システムのモデリング，解析，評価等に関する研究や，最適化手法や制御理論などの技法を取り入れたシステムの最適化，需要予測とプランニングなどの研究に取り組み，その成果は国際的論文誌に発表されています。本学会においては，中国，香港等のOR学会とのパイプ役を務められるとともに，関西支部運営委員，研究部会主査を歴任され，その活動を支えておられます。

久志本 茂 (くしもと しげる) 氏

昭和7年9月生れ

〔学歴〕 昭和32年 新潟大学理学部数学科卒業 (工学博士)

〔職歴〕

昭和32年 新潟県立高田高等学校教諭

昭和41年 秋田工業高等専門学校講師

昭和43年 福井大学講師

昭和45年 同助教授

昭和50年 同教授

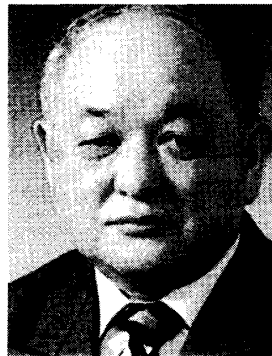
昭和54年 金沢大学教授

平成10年 金沢大学名誉教授

同 福井工業大学教授

平成18年 同 退職 現在に至る

〔OR学会関係〕 昭和63年春季研究発表会実行委員長，研究部会主査 平成3～5年度，評議員 平成6～7年度



〔著書等〕 教育のための基礎統計学 (宝文館出版, 1978), 最適化理論の基礎 (森北出版, 1979), 学術論文30編，発表多数

久志本氏は，長きに渡り複素空間における数理計画問題を研究された後，ORの普及・後進の指導に尽力されました。昭和63年には金沢において開催された春季研究発表会実行委員長として，その重責を果たされました。さらに，北陸地区でのOR普及のため，平成3年に初めて研究部会を設立され，以来20年近くに渡りその研究活動の中心的役割を担われ，また支援されることにより，多大の貢献をされておられます。

坂和 正敏 (さかわ まさとし) 氏

昭和22年8月生れ

〔学歴〕 昭和50年 京都大学大学院工学研究科博士課程数理工学専攻修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和50年 神戸大学工学部助手

昭和56年 同助教授

昭和62年 岩手大学工学部教授

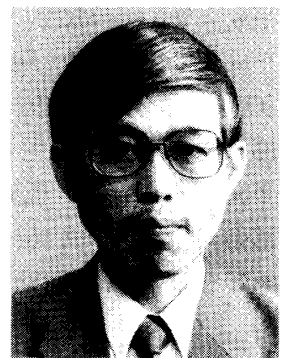
平成2年 広島大学工学部教授

平成13年 同大学院工学研究科教授 現在に至る

〔OR学会関係〕 中国四国支部評議員 平成8～13年度，第46回シンポジウム実行委員長 平成13年

〔著書等〕 応用解析学の基礎〈複素解析，フーリエ解析，ラプラス変換〉 (森北出版, 1988), ファジ理論の基礎と応用 (森北出版, 1989), 経営数理システムの基礎〈線形計画法に基づく意思決定〉 (森北出版, 1991), Fuzzy Sets and Interactive Multiobjective Optimization (Plenum Press, 1993), 数理計画法の基礎 (森北出版, 1999), 離散システムの最適化〈一目的から多目的へ〉 (森北出版, 2000), Fuzzy and Multiobjective Games for Conflict Resolution (共著, Physica-Verlag, 2001) 他，査読付き学術論文306編，査読付き国際会議論文200編，研究発表多数

坂和氏は，多目的計画法，大規模計画法，ファジィ計画法，確率計画法，進化的計算手法などに基づいて，従来の工学に人間性を取り入れた数理的システム最適化とその応用に関する研究を進めてこられ，これまでに3件の論文賞を受賞されるなど，その業績は世界的にも高く評価されています。本学会においては，中国



四国支部の活動に貢献されています。

増山 繁 (ますやま しげる) 氏

昭和 27 年 4 月生れ

〔学歴〕 昭 57 年 京都大学
大学院工学研究科博士後期課程
数理工学専攻単位取得退学
(工学博士)

〔職歴〕

昭和 59 年 京都大学工学部
助手

平成元年 豊橋技術科学大学
知識情報工学系講師

平成 2 年 同助教授

平成 9 年 同教授 現在に至る

〔OR 学会関係〕 中部支部幹事 平成 6~7 年度, 中部支部運営委員 平成 10~15 年度, 研究普及委員 平成 12~13 年度, 代議員 平成 14~19 年度, 中部支部副支部長 平成 16~17 年度, 中部支部長 平成 18~19 年度, 第 56 回シンポジウム実行委員長 平成 18 年

〔著書等〕 アルゴリズム工学 (共著, 共立出版, 2001 年), OR 用語辞典 (共著, 日科技連出版社, 2000 年), 査読付き学術雑誌原著論文 74 編, 研究発表多数

増山氏は, 主に組み合わせ最適化, グラフネットワークに関連した問題の計算複雑さとアルゴリズムの研究に従事してこられ, 特に, 未解決であった平面 p センタ問題が NP 困難であることを初めて示したことや同一グラフのコピーの辺素なパッキング問題の計算量を体系的に解明したこと等の成果を挙げられました。最近は統計的手法によるテキストマイニングの研究にも取り組んでおられます。本学会においては, 代議員, 研究普及委員, 中部支部運営委員, 支部長等を歴任され, その活動を支えておられます。



宮崎 知明 (みやざき ともあき) 氏

昭和 25 年 4 月生れ

〔学歴〕 昭和 49 年 東京大学
工学部物理工学科卒業

〔職歴〕

昭和 49 年 富士通(株)入社

平成 14 年 (株)富士通総研
研究開発部主任研究員 現在に至る

〔OR 学会関係〕 機関誌編集委員 平成 9~12 年度

〔著書等〕 研究発表多数

宮崎氏は, ベンダの立場から 30 年以上にわたり数理計画法システムの研究開発および商品提供を行ってこられました。富士通(株)においては, 数理計画法を中心とした OR 手法の研究開発および商品提供, 顧客適用支援に取り組み, 平成 10 年のソフトウェア事業本部ミドルウェア事業部が本学会実施賞を受賞された際にも貢献されています。(株)富士通総研においては, 装置系企業を中心に SCM を含む最適化手法の顧客適用を推進されるなど, OR の普及に尽力されています。



武藤 滋夫 (むとう しげお) 氏

昭和 25 年 4 月生れ

〔学歴〕 昭和 53 年 コーネル大学大学院 School of Operations Research and Industrial Engineering Ph. D. 課程修了 (Ph. D.)

〔職歴〕

昭和 54 年 東京工業大学理学部助手

昭和 57 年 東北大学経済学部助教授

平成 2 年 同教授

平成 8 年 東京都立大学経済学部教授

平成 10 年 東京工業大学大学院社会理工学研究科教授 現在に至る

〔OR 学会関係〕 研究普及委員 昭和 55~56 年度, 東北支部幹事 昭和 60~61 年度・平成元年度~平成 6 年度, 東北支部監事 昭和 62~63 年度, 評議員 平成 2~7 年度, 東北支部副支部長 平成 7~8 年度, 国際理事 平成 11~12 年度, IAOR 委員長 平成 11~12 年度, 論文誌編集委員 平成 13~15 年度, 国際



委員 平成13～18年度, 庶務理事 平成17～18年度
〔著書等〕 協力ゲームの理論 (共著, 東京大学出版
会), 投票システムのゲーム分析 (共著, 日科技連出
版社), ゲーム理論で解く (共編著, 有斐閣), ゲーム
理論入門 (単著, 日本経済新聞社), Advances in
Dynamic Games (共編著, Birkhauser) 学術論文71
編, 研究発表多数

武藤氏は, ゲーム理論の分野で精力的に研究活動を
されており, 理論面での研究論文だけでなく, 経済学,
社会学, 政治学など社会科学の応用に関する研究論文
を多数の国内外の論文誌に発表されています. その
研究業績は高く評価されており, 多くの国際会議のプ
ログラム委員として活躍されています. 本学会におい
ても, 東北支部副支部長, 評議員, 国際理事, 庶務理
事等を歴任され, その活動を支えておられます.

村松 正和 (むらまつ まさかず) 氏

昭和40年5月生れ

〔学歴〕 平成6年 総合研
究大学院大学数物科学研究科
統計科学専攻修了 (学術博
士)

〔職歴〕

平成6年 上智大学機械工学
科助手

平成12年 電気通信大学情
報工学科講師

平成14年 同助教授

平成19年 同准教授

平成20年 同教授 現在に至る

〔OR学会関係〕 第31回文献賞 平成15年度, 研
究普及委員 平成9～11年度, IAOR委員 平成11
～12年度, 論文誌編集委員 平成18年度～現在

〔著書等〕 最適化法 (共著, 共立出版), 論文21編,
発表多数

村松氏は, 最適化・数理計画全般で精力的な研究活
動をされています. 中でも, 錐線形計画およびその内
点法に関する研究において優れた業績を挙げており,
「対称錐上の線形計画問題に対する主双対内点法」の
論文により本学会文献賞を受賞されました. 本学会に
おいても, 研究普及委員, 論文誌編集委員等を歴任し,
現在も「計算と最適化」研究部会主査として活躍して
おられます.

